

今年度の発掘調査はじまる

小牧山城

はっくつかわら版

調査予定地（主郭北東斜面）



史跡小牧山主郭地区
第7次発掘調査

第1号

20141127

小牧山の木々がすっかり色づき、晩秋の青空に美しく映えています。今年度の史跡小牧山（小牧山城）の発掘調査を11月下旬からいよいよ開始しました。今年度の調査は小牧山山頂（主郭）の北～北東斜面を予定しています（右下図参照）。永禄6年（1563）に織田信長が築いた小牧山城の石垣の状況を明らかにするための調査は、主郭の周囲の斜面の北～西～南～東の範囲を昨年までに終え、上下2段、あるいは3段の石垣が屈曲を繰り返しながら巡っている様子がわかりました。今年度の調査でも、さらなる成果が得られることを調査担当者はじめ作業員一同期待しています。

調査状況はかわら版でお知らせしますので、楽しみにお待ちください。



発掘ひとくちメモ

～「小判はできるか？」～

小牧山城の調査現場をご覧になった方から一番多くいただく質問がコレです。大判・小判は安土桃山時代以降に製造される貨幣で、戦国時代の城である小牧山城から出土する可能性は残念ながらとても低いと思われます。

※このコラムの内容は一昨年・昨年度の「はっくつかわら版」にも記載したのですが、ご質問を多くいただくため再掲しました。

調査中ご迷惑をおかけしますがご理解とご協力をお願いします

小牧市教育委員会